

聖ヨゼフ学園 中学・高等学校

INFORMATION

公開行事予定

変更の可能性があります。詳細については本校ホームページでご確認ください。

第1回学校説明会	4/23(土)	(午前の部) 10:00~12:00 (午後の部) 13:30~15:30
個別学校見学会	5/19(木) ~6/10(金)	時間未定
オープンスクール夏	6/18(土)	10:00~12:00
帰国生対象相談会	夏休み中	時間未定
個別学校見学会	夏休み中	時間未定
第2回学校説明会	10/1(土)	10:00~12:00
オープンスクール秋	10/22(土)	時間未定
第3回学校説明会・過去入試問題勉強会	11/5(土)	10:00~12:00
体験入試	12/18(日)	9:00~11:00
入試直前説明会	2023	
総合・グループワーク型体験	1/9(月・祝)	10:00~12:00

ACCESS

交通の案内



MAP

学園周辺

臨港・市営バスのご案内

- 臨港バス** JR鶴見駅西口、東急綱島・菊名、JR新横浜・新川崎・川崎駅西口より臨港バス「二本木」下車
- 市営バス** JR横浜駅・川崎駅西口・東神奈川駅より国道一号線市営バス「東寺尾陸橋下」下車



聖ヨゼフ学園中学・高等学校



〒230-0016 横浜市鶴見区東寺尾北台11番1号 TEL:045-581-8808 FAX:045-584-0831
<https://www.st-joseph.ac.jp/>





聖ヨゼフ学園の淵源

アトメント(ATONEMENT)とは?

“And not only so, but we also joy in god, through Our Lord Jesus Christ by Whom we have now received the atonement.” (欽定訳聖書より)

「それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。」

(ローマの信徒への手紙5章11節より)



ポール・ワトソン神父

1898年、アメリカ・ニューヨーク州に、様々な理由から分裂してしまったキリストの教会をもう一度「一致」させることを目的として、修道会・アトメントのフランシスコ会を創立しました。



初代校長 勝野 巖

1953年、アトメントのフランシスコ会は、戦後の混乱に苦しむ日本にこそアトメントの教育が必要だとの思いから、勝野巖神父を初代校長として、横浜鶴見の地に聖ヨゼフ学園を創立しました。

アトメント…和解



人々の真の平和と幸福を創り出す人



理事長・学園長 平松 達美



校訓 信・望・愛

『信仰・希望・愛』の力によって一人ひとりが生かされていくようにとの思いをこめ、それぞれの単語から一文字ずつをとったものが校訓となっています。

中学・高等学校 校長 多田 信哉



混んとした時代に、今こそ「アトメント」を

「私たちは、この世の様々な問題を他人ごとせず、自らの課題として積極的に捉え、人々の真の平和と幸福を創り出す人を育てる教育を目指します。」これは今から69年前、学園創立にあたって、初代校長の勝野 巖 神父が述べた言葉です。私たちが学園の歴史と共に大切にしてきた思いと言葉でもあります。新たな困難に世界が直面している今、「信・望・愛」によって生きる人こそが、この混んとした時代に、希望の光をもたらし、愛をもって互いを支え合い、この世界に和解(アトメント)と平和をもたらすと確信しています。いつの時代も変わらない愛の心で、世界の変化を見つめ、柔軟に対応することができる知識と経験を仲間と共に学んでほしいと思います。そのためにも、神様からいただいた、一人ひとりの賜物を、十分に活かしながら「共に生きる力」を身につけていくことが大切です。すべての学びは、希望に輝く未来に向けての大切な準備となっていきます。



創立期の鶴見教会(のちのヨゼフ館)



勝野講堂



現在の校舎

信

カトリック精神に基づく全人教育

宗教を通じて、自分を知り、他人を知り、世界を知る

宗教教育

授業

全学年、週に1時間ずつ「宗教」の授業があります。すべての学年を通して、神様からいただいた賜物をしっかりと受け止め、隣人を大切にしながら世界につながっていく神の愛について学んでいきます。

宗教の授業

(2021年度実施例)

- 中1 キリスト教の基礎・『旧約聖書』
- 中2 『新約聖書』を通してイエスの生涯を学ぶ
- 中3 『新約聖書』から「イエスの死、復活、昇天、弟子たちの宣教」について
- 高1 世界の宗教・哲学的対話
- 高2 長崎に関連するキリスト教・高校生としての『聖書』の読み方
- 高3 「愛と死」について



修養会

年に1回、すべての学年において「修養会」が行われます。神父様やシスターの方の講話をうかがいながら、静かな修養の時間を過ごします。各学年のテーマに沿って自分自身を見つけるとともに、仲間との分かち合いを行います。

修養会のテーマ

(2021年度実施例)

中1 「かけがえのないわたし」	高1 「わたしにできること」
中2 「心の旅」	高2 「仕合わせとは？」
中3 「奉仕の心を育てよう ～いのちへの共感～」	高3 「愛」

生命尊重学習会

「修養会」と同様、全学年において年1回、「生命尊重学習会」の時間が設けられています。学年ごとに音楽療法士、看護師、NPO法人の責任者など、各界で活躍されている講師を迎え、生命の尊さと人間としての生き方を学びます。

生命尊重学習会のテーマ

(2021年度実施例)

中1 「子供から大人へ」	高1 「生きるってシアワセ!」
中2 「異性」	高2 「人権」
中3 「しあわせになるために」	高3 「愛」



●在校生メッセージ

生きていく上での支えとなる、宗教を通じた学び・探究

宗教の授業は自分自身と向き合える大切な時間です。キリスト教の教えを軸に自分が果たすべき使命や他者の存在について深く考えることができます。年に一度の修養会や生命尊重学習会では、様々な神父様や先生方のお話を聞き、各学年におけるテーマについて友人たちとともに、深く学び、探究することができます。聖ヨゼフ学園における宗教の授業や様々な宗教行事で学んだことは、将来、私がどんな道に進んだとしても必ず、いざというときの支えや道しるべになってくれるのではないかと考えています。



高校3年生 / Tさん

○卒業生メッセージ

自分を知り、自分を活かす。誰かの支えとなるために

授業だけではなく、日々の生活の中でも、カトリックの価値観で生きられるようになってほしいと思っています。神様からいただいた大切な命を受け止め、自分自身を知り、与えられた賜物を十分に活かす。自己中心的ではなく、常に相手の気持ちや立場になって考える。自分の時間を誰かのために惜しみなく使うことができる。一見自分にとってはマイナスになってしまうと思われることでも尊い時間であると思える。そういったことを心に留めて、これからの

宗教部 部長 / 37回卒業生 太田 絵美

人生を歩んでいってほしいと考えています。私自身もこの学園で12年間、宗教教育を受け、学生時代にカトリックの洗礼を受けました。誰かのために支えとなったり、様々なボランティア活動等を通じていけたりするのも、この学校で学んだからこそだと思っています。これからは、この教えを後輩でもある生徒の皆に伝えていくことが自分のミッションであると信じ、精一杯一緒に学んでいきたいと思っています。



希望の光をもって、この世界を照らす存在となるために

本校で実際におこなわれている学びの実践を、生徒の声とともにお届けします

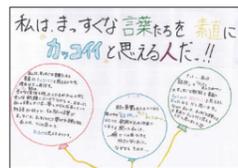
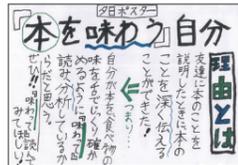
国語

授業の概要

中学1年生 | Unit 1 「自分が影響を受けた作品から自分自身を知ろう！」

1. 自分が影響を受けたと思う作品たちを挙げる。
2. そのうちの1つをクラスみんなに紹介(→みんなに自分自身を知ってもらおう!)
3. それらの作品からどのような影響を受けて、今の自分ができあがっているのかを考える。
4. その考えた内容を1枚のポスターにまとめる(→自分で自分自身を知る!)

生徒の成果物



生徒の振り返り・感想

●ユニット1のテーマは「自分が影響を受けた作品から自分自身を知ろう」だった。廊下にズラリと並ぶポスターはどれも、個性的で「その人らしさ」にあふれている。色の使い方も、言葉の選び方も、ポスターを見て感じることもその人にしかできない。同じポスターを見ていても感じ方は人それぞれ違う。その違いこそが、自分らしさ「アイデンティティー」であると思う。私は「自分自身のアイデンティティーを知る・再認識する」ということを、アイデンティティーという言葉の意味どおり「他者との違いを知る・再認識する」ということであると考えている。ユニット1のポスターに私は「たくさんの目がある私」という題をつけた。読書が好きなので、色々な本たちに影響を受けた。私が影響を受けたのは、その本たちが、自分と違う意見や考え・見方を持っていたからだろう。そして、そういった違う考えたちは、自然と私の一部になっていった。視野が広がる、視点・観点が変わる、つまり色々な「たくさんの目(視野・視点・観点のこと)」がある。私は、また新しい自分に出会った・気付いた気がする。「アイデンティティーを考えること」は「違いを考えること」だと思う。私は、自分のアイデンティティーを知ったことで、他と違う自分を好きになれた。自分の影響を受けた作品たちとじっくり向き合っ、納得する答えを出すことができた。自らのアイデンティティーに気付く、他者と違う自分を好きになったことが、「自分を大切に生きる」ことにつながったと思う。

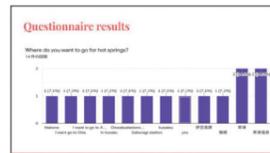
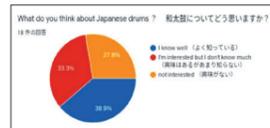
英語

授業の概要

中学2年生 | Unit3 「Things to Do in Japan」

1. 海外の姉妹校の中学生に向けて歓迎会を開くという設定の本文を読み、日本の文化について知る。
2. 日本の文化について各自でリサーチをする。
3. 調べたものの中から1つ選び、「海外の姉妹校の中学生に向けて日本の文化を紹介する動画を撮影する」という設定の下、クラスメイトの前で発表する。発表内容は、文化の紹介だけでなく、クラスメイトを対象に行なった文化に関するアンケート結果や日本に来た時の歓迎の言葉など、聞き手を意識したものとなっている。

生徒の成果物



生徒の振り返り・感想

- 自分の住んでいる日本の文化について調べて、その文化の魅力を知ることができた。自分の伝えたいことが伝わるように工夫して発表した。
- 自分も日本に住んでいるのに、知らなかった文化や技術が知れてとても面白かった。クラスメイトに英語のアンケートでどのように聞いたら、わかりやすいかを考え、工夫した。さらに、集計したアンケートをどのようにしたらわかりやすく発表できるのか考えた。
- 自分が住む日本ならではの魅力というのは人生で大事なものだと思った。日本を知らないまま生きていくのはだめだと感じた。

教員から見た学習の様子

準備の段階から、それぞれが日本の文化に興味を持っているようで、楽しんでリサーチしていました。発表するものを選ぶ時もなかなか迷わず悩む生徒もいました。発表準備では、原稿作成がスムーズに終わった生徒に、任意でスライドを作成することを追加しましたが、積極的にスライドを作成する様子が多く見られました。発表では、今までのプレゼンテーションの経験を活かし、どのように聞き手に伝えることが効果的な情報伝達かを考え、工夫する様子が見られました。

- 文化についての発表で日本について調べたり、周り話し合いをしたりしたことが印象に残っている。
- 日本文化の中で何の魅力も伝えるか決めて、その魅力をどう伝えるかを考えた。
- 歌舞伎にはどのような種類があり、それはどのようなものなのかを調べた。また、アンケートの質問をわかりやすく、内容がわかるようなものにした。

○卒業生メッセージ

「何故?」を突き詰め、「主体的に学ぶ」経験が切り拓いた未来 新聞社勤務/51回卒業生 市川 裕里佳さん

私は聖ヨゼフ学園卒業後、大学・大学院で中世ヨーロッパの歴史を研究しました。歴史に興味・関心を持ったのは、高校1年生時の世界史の授業がきっかけです。単純に歴史上の出来事や人物、年表等を覚えるのではなく、その出来事が起こった背景や意図を自ら考える場面が多かったです。このように、能動的に情報を取得し「何故?」と突き詰める経験を重ねたことにより、いつしか「主体的に学ぶ力」を身につけることができたように思います。中高生の間に身につけたこうした学びは、大学・大学院での歴史学の専門

的な研究につながり、さらに、自らも歴史学の面白さを伝えたり、学びのきっかけを作ったりするお手伝いをしたいという想いを抱くようになりました。現在は、マスコミ業界で、新聞を中心としたメディアを活用する【広告】を通して、老若男女問わず多くの人の「学び」や「夢」のきっかけを生み出していければと考えています。一人ひとりの価値観や個性を尊重する聖ヨゼフ学園の校風のもと、皆さんも自分の「好き」を貪欲に突き詰め、様々なことを主体的に学んでみてください。



アート

(音楽・美術)

授業の概要

中学2年生 | Unit2 「ペットボトルドリンク開発」 Unit3 「目指せ!名プロデューサー!」音楽と美術の合同ユニット

美術の授業でデザインし、作成したオリジナルペットボトルのCMを作る。

1. ユニバーサルデザインを意識したペットボトル製品デザインを2点以上考える。
2. 友達や教員にプレゼンテーションしたりアドバイスをもらった上で1つに絞り、実際にデザインしたペットボトルを粘土で作成。
3. 視覚効果と音楽の効果的な関わりや著作権・肖像権について学び、CMの特性を活かした表現について探究する。
4. 商品コンセプトやターゲット層を意識して絵コンテを描き、動画編集アプリを使用してCMを制作。

生徒の成果物



粘土で作成したペットボトル



Mさん

生徒の振り返り・感想

●ペットボトルデザインでは、手に取った人に幸せが訪れるように、またキャップがどんな方でも開けやすいよう、キャップの形を四つ葉のクローバーのようにし握りやすくなりました。全体のデザインは、おしゃれで持ちやすいワインの瓶のような形に工夫しました。CMを見た人が元気になり、明るい気持ちになれ、商品名を覚えてもらえるように、リズムカルなピアノに合わせた商品名のキャッチフレーズを考えました。動画制作は初めての経験だったので、最初は自分のアイデアを表現するのが難しかったのですが、友達や先生、ICT支援員の先生にアドバイスをもらいながら試行錯誤した制作時はとても楽しく、理想のCMが出来上がった時にはとても嬉しかったです。(Mさん)



CM動画の一部



Sさん

●CMを見た人に、「実際に飲んでみたい!」と思ってもらえるように、ということを考えリラックス効果がありそうなクラシック曲のメロディーを使用しました。著作権の発生しないクラシック曲から自分のイメージにあったメロディーを選び、商品の魅力やコンセプトを盛り込んだ歌詞を考えCM音楽を作りました。制作時に一番意識したことは、CM音楽や効果音と映像の動きを合わせるタイミングです。アニメーションや人物の動きをより引き立たせるように考えました。(Sさん)

社会

授業の概要

高校2年生(地理A選択者) | 高大接続特別授業「地図とは何か?」

地図の作り手となり、地図とは何かを考察する。

1. 東海大学観光学部先生と学生の皆さんによる講義を受ける。
2. 講義の内容を踏まえ、4,5名のグループに分かれ、地図の定義や役割、意味、目的などを考えながら、対象を自ら選定し、地図を作成する。
3. 作成した地図について、コンペティション形式で発表する。

生徒の成果物(ポートフォリオ)



生徒の振り返り・感想

●全体を通して私は問題の受け取り方や発表の仕方などは人それぞれであり、全てが同じではないということを知った。私たちは初め、この授業では、ある特定の場所の地図をただ描きさえすれば答えが出るものだと考えていた。しかし、他の班の様々な発想にふれ、それだけではつまらない、もっと様々なことを考えた上で地図を描かなければ、「地図とは何か」という問いに対する答えにはたどりつけない、と考えるようになった。たとえば、B班の、各国の名所を集めて新しい地図を作るという発想や、A班の、地図はシンプルで正確なものが良いから縮尺が正しい白地図を使うという案、さらにはG班の、立体的にして高さを出すために、折り紙を1回クシャクシャにしてから使って地図に活かすという案は非常にユニークで、驚かされた。また、E班の、地図に道路(高速道路)を描き込むという発想は、対象を観光客としたからこの案であり非常に興味深かったし、一方で、D班の、知らない道路は書かないという発想もあり、本当に班によって多様な考え方があったということを知ることができた。

また、発表は「参加型」のものであったので、聴いている側としても楽しむことができた。班によってイラストや写真を使うなど、様々な工夫を凝らしていて、こちらもそれぞれの班の個性が出ていて多様だった。そして、なによりも発表する側が楽しんで作った作品・発表は、見ていても聴いても楽しいものだということがよく理解できた。

今回の授業で初めて深く「地図とは何か」について考えた。そこで、地図にも「考え方」(とらえ方)がたくさんあって、夢のあるものにもなれば実用的なものにもなり、非常に多岐にわたって作成者の「考え方」(とらえ方)が「モノ」として見えるものであるということを知ることができた。この授業は、このように私に多くの学びを与えてくれた。

ライバルは過去の自分。生涯学び続ける人になるために

IB(MYP) コーディネーター 吉野 英男

この先10年後、20年後、どのような教育をしていくべきか、と考えた時に行きついたのが国際バカロレアIB教育プログラムでした。「自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけ」という使命のもと、2020年4月、中等教育プログラム(MYP)の授業を開始しました。8つの教科群、ユニットごとの評価、知識蓄積から思考力発揮……。生徒は戸惑いながらも活き活きと学んでいます。自分の考えを発信する

チャンスが常にあるからです。「本当の学び」がここにあるのではないのでしょうか。「自分で考えて行動し、振り返りを通じてまたさらに考え行動し振り返る……」という自分なりのトライ&エラーの繰り返しです。他者との比較ではなく過去の比較、さらに、未来への学びの構築です。このように、IBの学びを通じて生涯学び続ける人になることを願っています。そしてその力は誰もが持っていると思います。



愛に満ちた教育で、愛に生きる人となる

愛に満ちた教育

一人ひとりがお互いをみつめ、みとめ合える環境



少人数(1学年2クラス)の学び舎

愛に生きる人となる



授業・進路指導 一人ひとりを真摯にみつめ、ともに歩む道のり



発信型の授業

すべての授業において、知識をインプットするだけではなく、得た知識を活かして探究し、その考えた内容を発信する機会を多く設けています。すべての担当教員が、一人ひとりの発信を丁寧に分析し、適切で有用なフィードバックができるよう心がけています。



少人数授業

小規模校の強みを活かし、特に高校2・3年生の選択科目などにおいて、少人数の授業を実施しています。毎年のように、教員1人に対して生徒が数名の授業が開講されます。マンツーマン(教員1人に対して生徒1人)となる授業も珍しくありません。また、授業によっては、一つのクラスを複数の教員で持つ「TT(チーム・ティーチング)授業」が実施されています。



進路指導

生徒と教員が、一人ひとりの適性を一緒になって見極め、適切な進路をともに見つける。そして、目標を見定めたなら、そこへ向かって生徒・教員が一体となって進んでいく。そういった、言ってみれば一人ひとりに合わせた「オーダーメイドの進路指導」を行っているのが聖ヨゼフ学園です。



小論文個別指導

現在、数多くの大学入試で必要とされる「小論文」。その他に「志望理由書」や「自己推薦書」、面接など、教科外で対策が必要とされる受講科目・書類について、マンツーマン、場合によっては生徒1人に対して複数の教員が個別指導にあたります。

卒業生メッセージ

中学生の頃に抱いた科学への興味。今、そのまなざしは世界へ

私はもともと医療に興味があり、薬剤師になりたいと考えていました。そこから科学全般に興味を持つようになりました。そして、中学3年生で麻布大学の科学実験教室に参加した際、遺伝子組換え実験やPCR法による遺伝子増幅実験などで科学実験というものに触れ、将来理系の研究者になりたいと決意が固まりました。純粋に学問を究め、生命の仕組みやそれぞれの組織の働きを研究してみたいとそのときに思いました。そこから国立理系の大学を

北海道大学 総合理系 / 59回卒業生 相川 綾音さん
目指し始めました。学校では、個別で受験科目に対応してもらったので共通テスト、個別試験ともに悔いのない結果となりました。大学は、1年次は一般教養で、2年次から学部配属となるので、専門科目だけでなく幅広い知識を身につけることができます。様々な視点を持ち世界で活躍できる研究者になれるよう、大学で研鑽を積みたいと考えています。



行事 みんなが輝くために、みんなで支える



体育祭

5月に行われる体育祭。体育祭実行委員会が中心となり、すべての生徒がなんらかの係に就き、複数の競技に出場します。さらには、すべての生徒が参加して学園名物「学年演技」を行います。全員が「主役」であるからこそ、本校で最もアツク盛り上がる行事となるのです。



英語弁論大会

生徒が日ごろの学習成果を発信する行事の一つとして、英語弁論大会があります。オーディションを経て代表を勝ち取った生徒は、それぞれ教員からマンツーマンの指導を受け、本番にのぞみます。「英弁」間近になり、学校のあちこちで生徒たちが表情豊かに英文を暗誦する姿は、聖ヨゼフ学園の風物詩の一つです。



学園祭(ヨゼフ祭)

毎年、全校生徒でテーマを決め、その意図に沿って学年、クラブ・課外活動、有志による企画を発表します。また、すべての生徒が学園祭を運営する係を必ず担います。生徒一人ひとりが、いくつもの役割をこなし、忙しく駆け回りながらもそれぞれの輝きを放つ。それが「ヨゼフ祭」です。

在校生メッセージ

世界中どこにいても空は一つ。聖ヨゼフ学園の想いを世界へ

膝を突き合わせ議論し行動する、そんな当たり前のことが難しい社会環境で開催すら危ぶまれたヨゼフ祭。「それでも必ず実現する!」と確固たる意志のもと、オンラインミーティングで企画を徹底的に練り上げ、公演の鑑賞場所を分散させたり、録画や生配信で教室鑑賞にしたりと、新しい試みを、実行委員はじめ全ヨゼフ生が心をひとつに取り組みすることで、実施し成功させることができました。世界中どこにいても空は一つ。実施後、使用した備品を海外支援団体に寄贈するなど、校訓「信・望・愛」の想いは、2021年のヨゼフ祭テーマ「No Rain, No Rainbow」のごとく虹の輝きへと繋がれてゆきます。



高校3年生/ヨゼフ祭実行委員長 Mさん

クラブ・委員会 責任を背負うことの「意味」と「充実」を知る

ほとんどの生徒がクラブ・委員会活動を行っています。そして、高い学年になると多くの生徒がなんらかの責任ある役職に就きます。少人数の学校であるがゆえ、だれもがうちに秘めているタラント(才能)が見出され、輝きを放つのです。ときに悩み、苦しみながらも、充実した学園生活を生徒たちは送ります。



グリークラブ



テニス部



S.J.V.(St.Joseph Volunteer)委員会

在校生メッセージ

未知なる道を切り拓く～新同好会の発足とコロナ禍における活動～

剣道同好会は2020年4月に立ち上げられました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、本格的な活動は夏休みからなくなってしまいました。活動は感染対策を徹底し、マスクをつけた上から、さらに感染予防フィルターのついた面を装着しておこないました。活動時間も短縮されたり、コロナ禍での稽古は様々な制限を余儀なくされましたが、どうしたらより良い稽古ができるかを部員同士で話し合い、互いに支えあいながら活動してきました。この同好会は、コーチや顧問の先生方にアドバイスをいただきながら、自分たちの力で発足したものです。時に、先輩という道しるべがない困難さを痛感しながら、それでも同好会の部員や後輩たちに支えられながらやってこられました。こうした経験が私を成長させ、自信を持たせてくれたのです。



高校3年生/剣道同好会会長 Kさん

愛ある中で過ごし、愛の存在に気づき、愛に生きる人となる

人と真摯に向き合い、真剣に相手のことを考え行動することは非常に難しいことです。時に相手に対して、厳しい言葉や態度で接しなければいけない。そういった場合もあるでしょう。生徒と真摯に向き合おうとすると、そのような場面に何度も突き当たります。真剣に相手のことを考え行動することを仮に「愛」と呼ぶならば、「愛」にはそういった厳しい一面が確実にあります。生徒が、たとえ途中で気づけなくても、卒業しつづくと後にも、ふとしたとき、あるいは何か

教頭 武田 けい子

困難に見舞われたとき、あるいは親になったとき、そういった厳しさが、愛あるものであったと気づいてくれば良いと思っています。本当に愛ある環境で学園生活を送っていないならば、それに気づくことはありません。愛ある中で過ごすから、愛の存在に気づくことができ、愛に生きる人となるのです。生徒と教員、あるいは生徒同士が深く、篤くかわり合うことができる聖ヨゼフ学園は、愛に生きる人となるための学び舎であると考えています。

